

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 2 月 24 日

札幌市立 北都中学校

1 今年度の重点目標

子どもが「自ら学び考える学校」、教職員が「自ら創造的に働く学校」 1 分かる・できる・楽しい授業づくりの取組の強化(個別最適な学び 協働的な学び) 2 命を大切にす指導、いじめ防止等の取組の強化 3 「健やかな体」育成に向けた取組の強化 4 子ども一人一人の教育的ニーズに応じた支援	5 校種間連携と家庭・地域とともに進める学校づくり 6 教員の資質・能力等の向上 7 全教職員の協働意識の強化 8 教師を魅力ある職業にするための「働き方改革」の推進
---	--

2 本年度の経営方針

1 知・徳・体の調和のとれた育ち 学ぶ力の育成・豊かな心の育成・健やかな体の育成 2 札幌らしい特徴ある学校教育 3 子どもの発達への支援	4 信頼される学校の創造 5 ウェルビーイング 多様な個人それぞれと地域や社会のウェルビーイングの実現
--	--

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	子どもが「自ら学び考える学校」	自ら考えて行動しようとする姿や、仲間と関わりながら思いやりをもって生活している。	A	学習において、自ら課題を見つけ、判断し、表現する機会を増やし、取り組むことができた。また、学校生活の至るところでお互いに思いやる姿が見られた。今後も継続していく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		これからの時代に求められる「人間力」の育成に重点を置いた教育活動が着実に推進され、その成果として生徒の成長が確かに見られる点を高く評価する。生徒が互いの違いを認め合い、尊重し合いながら学校生活を送っている姿は望ましく、取組の成果であると感じる。また、生徒の主体性も育まれており、今後もこの方向性を大切にす教育の充実を期待したい。				

人間尊重の教育	差別や偏見のない「人間尊重の教育」	お互いの違いを認め、差別や偏見のない温かい人間関係作りを心がけている。	A	本校生徒会活動スローガンHeartfulに則し教師からの働きかけに頼るのではなく、生徒自らが人と人とのつながりを意識した学校生活を心がけることができた。今後も生徒発信の活動を大切に、主体性を生かした取組の充実を図っていききたい。	A	A
「学ぶ力」の育成	主体的に取り組む、学んだ力を生かし、新たな学びへの挑戦	自分なりの疑問や課題をもって学習に取り組もうとしている。	B	授業においては、ICTの活用等を含めて課題探究的な学習の場面が増え、主体的に課題に取り組む姿勢が見られるようになってきた。学習習慣の定着について目的や目標をもって、計画的に家庭学習に取り組む力を育成していく。	A	A
「豊かな心」の育成	よりよい人間関係づくりの推進	学級・学年に温かい人間関係を築き、互いの意見を尊重しながら合意形成しようとしている。	A	学級・学年を通じて、生徒同士および生徒と教師との信頼関係を基盤とした指導を行い、「豊かな心」の育成を進めることができた。今後も、個に応じた指導・支援の充実を図りながら、調和の取れた人間性や社会性を育む教育を推進していく。	A	A
「健やかな体」の育成	運動に親しむ態度と望ましい生活習慣の定着の推進	健康について考え、体力作りを積極的に行っている。	B	体力作りだけではなく、運動習慣や生活リズム、健康面に関する取組ができた。指導方法や体制の改善を行い、教職員間で共通理解を図りながら、学校全体の取組としての定着と効果の向上を目指す。	A	A
いじめ対策	いじめの早期発見と迅速な対応	気になる言動やトラブルがあった際の共有報告と丁寧かつ速やかな組織対応が行われている。	A	いじめの未然防止の取組は生徒の取組を軸に、教員がICT等を活用しながら、学校全体の取組として質的向上を図ることができた。早期発見、対応についての取組は組織対応ができており一層の充実を図っていききたい。	A	A
一貫性・連続性のある教育(小中一貫した教育)	学びと育ちの連続性を踏まえ、小中連携した教育活動の推進	指導の連続性を意識した取組を通して、児童生徒の学習面・生活面の円滑な接続が図られている。	A	取組は継続して実施され、成果を上げている。実践内容は校内で共有され、洗練されてきている。今後は効果を踏まえつつ、学年や分掌を越えた活用を進め、中学校区内全体の取組として一層の質的向上を図る。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		「学ぶ力」の育成については、中学校在学中のみならず、高校進学後も生徒が主体的に学習に向き合っている姿が見られ、確かな学習習慣が育まれていると評価できる。また、学習形態の工夫による協働的な学びの充実にも期待したい。「豊かな心」の育成やいじめ防止に関する取組も丁寧に進められており、高く評価する。				

学校独自に設定する分野	子ども一人一人の教育的ニーズに応じた支援	A	学校全体で個別最適な学びを軸に教育活動を進めてきた。特別支援教育コーディネーターを中心に有償ボランティアと協働し、チーム体制で支援できた。また交流学級もニーズに応え、実施することができた。今後は困りを抱えた生徒の把握が課題である。	A	A	
	働き方改革	B	昨年同様、校内においてICTの活用を推進し、業務の効率化を行った。また教職員一人一人の状況に応じた柔軟な働き方に配慮することができた。今後は国や教育委員会の動きを注視しながら積極的に推進していく。	A	A	
学校関係者評価委員会による意見		子ども一人一人に丁寧に向き合い、それぞれの教育的ニーズに応じた支援や教育活動を着実に進めている点を高く評価する。個に応じた指導体制の充実は、安心して通学できる環境づくりにつながっている。また、働き方改革についても工夫と努力が重ねられているが、学校だけでの取組には限界もある。地域として学校を支える視点を大切に、可能な限り協力を続けていきたい。				